

所管課による評価①

平成29年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

| | | | |
|------|--|--------|---------------|
| 施設名称 | ふれあい館・桜本こども文化センター | 評価対象年度 | 平成29年度 |
| 事業者名 | •事業者名 社会福祉法人青丘社 •代表者名 理事長 妻 重慶 •住所 川崎市川崎区桜本1-9-6 | 評価者 | 青少年支援室長 |
| 指定期間 | 平成28年4月1日～平成31年3月31日 | 所管課 | こども未来局 青少年支援室 |

2. 事業実績

| 利用実績 | 1 ふれあい館・桜本こども文化センター ①年間延べ利用者数 | H28 | | H29 | | H28 | |
|------|----------------------------------|---------|---------|------------|---------|---------|--|
| | | 68,441人 | 71,202人 | ②年間延べ利用団体数 | 871団体 | 749団体 | |
| | 2 さくら小学校わくわくプラザ ①登録者数 | 270人 | 253人 | ②年間延べ利用者数 | 19,940人 | 15,924人 | |
| | 3 大島小学校わくわくプラザ ①登録者数 | 169人 | 151人 | ②年間延べ利用者数 | 12,236人 | 13,083人 | |
| | 4 東大島小学校わくわくプラザ ①登録者数 | 156人 | 132人 | ②年間延べ利用者数 | 11,739人 | 12,924人 | |

| 収支実績 | 単位:円 | | |
|------|---------------|-------------|-----------|
| | 1 収入 指定管理料 | 2 支出 人件費 | 3 差引 |
| | 139,686,177 | 118,244,022 | |
| | | 9,878,101 | |
| | | 8,848,169 | |
| | | 1,000,000 | |
| | | 137,970,292 | |
| | | | 1,715,885 |
| | | | |

3. 評価

| 分類 | 項目 | 着眼点 | 配点 | 評価段階 | 評価点 | | | | | |
|--|--------------------------------|---|----|------|-----|--|--|--|--|--|
| 事業の推進 | 事業推進 及び 事業成果 | 「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。 | 10 | 4 | 8 | | | | | |
| | | 「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。 | | | | | | | | |
| | | 「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。 | | | | | | | | |
| | | 「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。 | | | | | | | | |
| (評価の理由) | | | | | | | | | | |
| ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・こども文化センターでは、子ども・若者の居場所として、音楽イベントである桜本フェスへの参加や中学生を対象とした学習サポート、クラブ活動である、チャソゴクラブ、舞蹈クラブ等、ふれあい館ならではの活動が実施されているとともに、今年度新たに多文化こども「ハロハロ」クラブを立ち上げ、多様なルーツを持つ小学生・中学生が、互いに多様性を尊重する居場所として機能している。 ・多文化共生の地域づくりとして、外国人住民が孤立しないように、識字教室を開講するとともに、生活情報学習会、入学サポート等、外国人にルーツを持つ家族向けの事業を実施している。また、「韓国・朝鮮となかよし」や「フィリピンとなかよし」等ワークショップに協力しているとともに、韓国・朝鮮文化やフィリピン文化を伝える民族文化ふれあい講師事業等、学校教育と連携して、多文化共生教育を推進している。 ・多世代交流として、「おおひん地区春の祭り」、「桜本ブンマルノリ」、「餅つき大会」等を通じて、高齢者を含めた多世代交流が促進された。 ・こうした取組の結果、全体の利用者数が昨年度と比較し、約2700人増加し、年間7万人を突破した。 | | | | | | | | | | |
| サービス向上及び業務改善 | 利用者ニーズ | サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。 | 10 | 4 | 8 | | | | | |
| | | 利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。 | | | | | | | | |
| | | 苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。 | | | | | | | | |
| | 特別な配慮を要する利用者への対応 | 特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。 | 5 | 3 | 3 | | | | | |
| | 学校及び行政機関との連携 | 事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。 | 10 | 4 | 8 | | | | | |
| | 施設・事業の広報 | 施設を知つてもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。 | 5 | 4 | 4 | | | | | |
| | 運営協議会の実施 | 「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。 | 5 | 3 | 3 | | | | | |
| 保護者懇談会の実施 | 「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか | 5 | 3 | 3 | 3 | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| (評価の理由) | | | | | | | | | | |
| ・利用者ニーズについて、外国にルーツを持つスタッフ、学習支援を受けた経験を持つスタッフ等、様々な経験をした若者等を積極的に雇用し、多文化なルーツを持つ子どもや若者、障がいをもつ利用者、ひとり親等の利用者ニーズが把握出来るよう、体制づくりを進め、家庭背景等の個別事情をくみ取り、プログラムに反映させ、孤立防止等に取り組んでいる。また、お化け屋敷やハロウィンパレードにおいて、こども会議の意見(幼児への配慮、スタンプラリー方式導入)を事業内容に反映することで、参加者増につなげた。 ・特別な配慮を必要とする利用者について、職員の個別対応とせず、学校等とのケース会議を開催して対応方法等を共有し、わくわくプラザでの対応に活かす取組を行っている。 ・学校及び行政機関との連携について、県立川崎高等学校および県立大師高等学校の新任教員の夏休み地域研修プログラムを引き受けている。また、市立さくら小学校と年に2回人権共生教育担当者会議を実施し、情報交換を行うとともに、桜本中学校と情報交換会を実施している。さらに、町内会行事や桜本商店街などのイベントや地域教育会議等の地域団体の行事に参加し、協力している等、学校及び地域と連携し、子どもを見守る体制を整えている。特に、地域の一大イベントである「おおひん地区春の祭り」では実行委員会事務局を務めるなど、地域の中核的拠点としての役割を果たしている。 ・施設・事業の広報については、館だよりのほか、「キッズスペースだより」(乳幼児親子向け)、「ろばだより(子育て世帯向け)」、「あ・そ・ば(小学生向け)」等を発行するとともに、地域特性に応じて、利用案内を多言語で発信する等、ホームページやおたより等の多様な媒体を用いて、施設・事業の周知のための積極的な広報等を定期的に実施している。 ・運営協議会については、定期的に各施設において実施し、意見や要望を取り入れて事業を実施している。 ・保護者懇談会については、多くの保護者に参加してもらえるよう、外国につながるスタッフが外国のおやつや料理を作つて提供したところ、スタッフと保護者の相互理解のきっかけにもつながった。 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---------|---|---|----|---|---|--|--|--|
| 組織管理体制 | 適正な人員配置 | 「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。 | 10 | 3 | 6 | | | |
| | | 「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。 | | | | | | |
| | | 「川崎市公契約条例」が遵守されているか。 | | | | | | |
| | 職員の研修体制 | 職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。 | 10 | 4 | 8 | | | |
| | | 職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。 | | | | | | |
| | 個人情報等の取扱 | 法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。 | 5 | 3 | 3 | | | |
| | (評価の理由) | | | | | | | |
| | ・適正な人員配置について、こども文化センターおよびわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、特別な配慮を要する利用者に応じて、職員の加配を行っている。 | | | | | | | |
| | ・職員の研修体制について、講習会や研修会などの資料をファイリングし、職員のみならず利用者に対しても閲覧できるようにしているとともに、研修会に参加した職員が講師となり、参加していない職員へ研修を実施している等、職員と情報共有を行っている。また、困難な状況にある子供に寄り添う研修や、日本語が不自由な保護者への支援に関する研修等、外国人市民や多文化なルーツを持つ子供及び困難な課題を抱えた若者が多く来館するという地域特性に応じた研修を実施し、利用者への対応に活かされている。 | | | | | | | |
| | ・個人情報等の取扱について、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 | | | | | | | |
| 適正な業務実施 | 施設・設備の保守管理 | 安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。 | 5 | 4 | 4 | | | |
| | | 必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。 | | | | | | |
| | | 備品等の管理が適切になされているか。 | | | | | | |
| | 利用者の安全確保 | 利用者の安全を確保するための体制が整っているか。 | 5 | 3 | 3 | | | |
| | | 事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。 | | | | | | |
| | | 事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。 | | | | | | |
| | 防犯対策及び災害時の対応 | 施設の防犯対策に工夫がなされているか。 | 5 | 4 | 4 | | | |
| | | 災害発生時に備えた対応が図られているか。 | | | | | | |
| | | 災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。 | | | | | | |
| | (評価の理由) | | | | | | | |
| | ・施設・設備の保守管理について、施設や設備の点検や備品の点検がなされており、必要に応じた維持・補修が行われている。また、幼児や高齢者からの要望を受け、全トイレの暖房便座化を行う等、市民サービス向上に努めている。 | | | | | | | |
| | ・利用者の安全確保について、ふれあい館職員及びわくわくプラザスタッフから、施設安全点検委員を選出し、時間帯に応じて、チェック項目を定め、各施設の点検を実施している。 | | | | | | | |
| | ・防災対策及び災害時の対応について、川崎区役所危機管理担当と連携し、識字学級で日本語を学ぶ外国人市民を対象とする防災講座を実施し、子育て支援プログラムキッズスペースらぼの利用者等にも参加を呼びかける等、防災の普及啓発活動を積極的に行った。 | | | | | | | |
| 收支計画・実績 | 適切な金銭管理・会計手続 | 法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。 | 5 | 3 | 3 | | | |
| | 効率的・効果的な支出 | 「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。 | 5 | 3 | 3 | | | |
| | | 効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。 | | | | | | |
| | | 支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。 | | | | | | |
| | (評価の理由) | | | | | | | |
| | ・適切な金銭管理・会計手続について、法人の規定等に沿った適切な会計処理が行われているとともに、会計手続きに特に問題となる事実はない。 | | | | | | | |
| | ・効率的・効果的な支出について、必要なサービス水準を確保した上で、「事業計画」に沿った適切な支出がなされている。 | | | | | | | |

4. 総合評価

| | | | |
|-------|----|-------|---|
| 評価点合計 | 71 | 評価ランク | B |
|-------|----|-------|---|

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

昭和63年の開館時から継続運営してきた団体としての経験・実績から、安定的な事業運営がなされているとともに、地域に根差した施設として、地域との信頼関係を構築することで、良好な連携が図られており、今後も地域一体となった運営が期待できる。

また、地域の拠点的な施設として、障がい児や高齢者の孤立化に配慮しつつ、中高生の居場所づくりや多文化共生事業など、幅広い事業に取り組み、地域交流、世代間交流を図っている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域の拠点的な施設として、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、職員と利用者が顔の見える関係を築き、様々な世代の利用者にとって、居心地のよい場となるよう努めること。